

編輯室內外

百鍊して秋水の光を放つべき躍進日本の姿は現はれた。狭少な東海の孤島に籠居しなから獨善思想自尊主義に終始して居つては百鍊どころか五鍊も十鍊も不能である。擬つて百鍊の鑛と爲り銳利鑿(カント)を斷つべきである。我等國民茲に着意して各方面に於て國民自ら不動の精神を以て對處すべきである。國民は不動の精神であるも政府は變ず、日支事變勃發の際には近衛内閣であつた開員の入替を行ふて其強化を企てたに拘はず、今春一月五日「新なる事態に處する爲には新なる内閣を以て民心の一新を圖るの要あり」として平沼内閣を組織せしめたが、民心一新を企圖した平沼内閣は外交の蹟と新なる構想とに迫られて退却し、阿部内閣か組織せられた。阿部内閣は自主外交と國內機構の刷新と明朗闊達の指導精神とを標榜して邁進すと盟はれた。複雑多變を極むる國際現情に對して如何に對處すべきか國民と遊離することは絶對の禁物である。

戦ひは遂に獨波間に始められ、英佛之に參加して強いて長期對戰を宣言して居る。だが波國の危機は旦夕に迫り來れるに不拘英佛の武力行動はなまぬるきを感じしめらる。伊とソ聯とは何時如何なる形式で獨味の方となるか米國の中立案は何時まで續くのか、我國の不介入聲明は經濟的に國際的に如何なる効果を呈すべきか、日支事變處理は如何なる具體的方策に出づるのか、

一殺國民をしてたゞ天の一方を眺め暮らすに止まらしめらるるであらうか。

日支間和平運動の主將汪兆銘緒に來朝して我國要人と交際したと傳へられたが、果せるかな三ヶ月前に其行動があつたことが近衛公の公表に依つて明かにせられた。汪氏は「日支間の關係が斯んなことになつたのは孫文先生の意志に反したことで此上もなく残念だ」と熱感を拭いたと同感である。支那に於ての斯の如き人物が一日も速かに和平運動の實行に着手し、眞の和平が兩國間に招來せられんことを熱望してやまぬ、躊躇逡巡して徒らにソ聯の術中に陥ることなからんことを。

ソ聯の政權掌握者スターリンは極東に於て或は蔣介石を援助し、或は滿蒙國境に強烈なる武力を以て越境し我日本をして軍力と財力とを徒費せしむるの策に出で居るが、今又獨逸と不可侵條約を締結して英佛の疲弊するを企てたのである。此世界革命誘發の野望を着々實現して諸強國を繼弄する不敵な魂膽を知つてか知らずにか、獨ソの協約に倣つて日ソ不可侵條約を希望する日本人が居ると聞く、智慧は呼ばはらざるか、聰明は聲を出さざるか。

ナチス大會の無期延期によりて空しく歸國の途にある大角海軍、寺内陸軍兩大將はミラノよりボローニアに着し市内の大學、聖ペトロニオ大寺院其他を遊覽し、尙英國

を觀光し米國經由歸朝せらるる由海陸の安全を祈ると同時に其の旅行の徒勞に歸することなきを望む。

波國の首都ワルソーは一擧獨軍の占領に歸するかと思はれたが存外に抗戰しておるが、夫れにしても獨軍の砲兵力は世界無比の強きを現はして空軍と共に敵を壓倒す。併し佛軍の機關銃の偉力にはさすがの獨軍も辟易せしめらると、勝敗の結果は何時視らるるであらうか。

政黨の内訌乃至政務官問題が政黨存在の認識を國民に與ふるに過ぎないと評するものがある。酷評か正評か知らず國情は舉國一致萬民一如を要求して居る。政黨は何處に行かんとするか。(九二〇洗)

定價一部 五十錢
一ヶ年分 金六圓

發行所 東京市麴町區霞關一丁目内務省内
社団法人 道路改良會
電話銀座(57)四二七

發行所 東京市世田ヶ谷區代田一丁目七八〇番
編輯者 小島 效

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
印刷者 常磐印刷所

印刷者 奈良直一